シンポジウム【減圧症】
第1種高気圧酸素治療装置における減圧症治療の現状と課題

大畑雄太[1)]　金井克好[1)]　廣谷暢子[1)]　青木理香[1)]
高柴國治[1)]　土居　浩[2)]　荒井好範[2)]
1)牧田総合病院　CE部
2)牧田総合病院　高気圧酸素治療センター　脳神経外科

【はじめに】

2016年以降，減圧症治療は搬送過程で重症に移行しやすい例や，軽症・残存症状の治療に対して第1種高気圧酸素治療装置（以下，第1種装置）を用いて治療を施行する事が促されている。当院では2021年2月より空気加圧を導入し，軽症の減圧症治療や残存症状の治療を行っている。今回は，当院における減圧症患者の現状と課題をまとめたので報告する。

【対象】

2021年2月～2023年3月に当院にて減圧障害治療を行った32名。

【方法】

どのような経緯で当院の治療を受けたのかを対象患者を分類した。

1. 当院での治療が初回／他施設紹介
2. 治療内容（プロトコール，治療回数等）
3. 潜水目的（インストラクター，職業潜水，ファンダイバー）

【結果】

発症後当院で初回治療を行ったのは26名，他院からの紹介患者が6名だった。また，潜水目的（内容）としては，ファンダイバーが28名で，その他が職業ダイバー（インストラクター，潜水作業員）だった。治療プロトコールは，US.Navy.Table-6（T-6）が7回，US.Navy.Table-5（T-5）が25回で，その他に残存症状に対して追加治療を行っていた。

【考察】

治療は，他院からの紹介患者や比較的軽症の患者が多かった。第1種装置は体位変換等に制限があることより，T-6よりもT-5を選択したことが多いと思われる。また，ファンダイバーのほとんどが自宅から離れた場所でダイビングを行っている例が多く，発症後に飛行機で帰京してからの受診もあった。減圧障害は不慮の事故で旅行先などでは，治療可能な施設検索や滞在先の確保は困難な場合が多く，各都道府県で再圧治療が行える施設が常に把握できる体制づくりや連携をとり，情報共有ができる体制の構築に努めていきたい。

【結語】

当院では，地域連携向上の為，より詳細な情報共有を行う体制を構築していきたいと考えている。取り組みとして，減圧症治療終了後にアンケートを実施し，症状の経過や今後の動向の聴取を行っていきたい。